

ミックスジュース

学級通信
鵜沢中
3年生
2018年9月27日
No. 23
よいよく生きるって？



道徳「二人の弟子」



読み物について

お上人さまの二人の弟子、智行と道信が対照的な生き方の中で、ともに人間的な弱さに苦しみながら、それぞれがその弱さを克服していく姿が描かれた作品である。

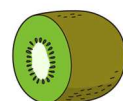
道信は恋のために修行を捨て、姿をくまます。しかし、女性に捨てられ、盗人にまで身を落とし酒にひたる、どん底の人生を経験することになる。死を覚悟し倒れ込んだとき、雪の上で力強く芽吹くフキノトウを見つける。そのとき、道信の心の奥に眠っていた人間の強さが蘇る。

そんな道信が、厳しい修行に耐え、勉学を続ける智行のもとへ戻ってきた。しかし、智行は道信をどうしても受け入れることができない。一度逃げ出した人間が、辛さに耐えて修行してきた自分と同じ立場に戻るのが許せない。

道信を許すというお上人さまの言葉をはかりかねて歩く夜道、智行は月光に照らされた純白の白百合を見つける。その白い輝きに、自分の中にある人間としての気高さが蘇り、あふれる涙が止まらなくなる。



授業を通して、学んだこと、考えたこと(一部紹介)



- 私も、心の中に弱い自分も、観にくい自分もいる。
それに負けてしまう事はあると思うけど、智行と道信のように、最終的には「良心」に耳を傾けて、やり直せる自分でいたい。
- 道信は、修行をやめ、逃げ出したときに、自分の弱さや醜さをみた。その時、心を入れかえて、もう一度修行をしようと思った。それを智行は受け入れることができなかった。しかし、「やってしまった」と気づくことができた智行は成長できたと思う。
- 個人的に道信を許せないという意見だったから、あまり共感できなかった。しかし、人間誰しも過ちを悔い改め、やり直すことができると思う。そのやり直すチャンスをつぶしてはいけないと思う。
- お上人さまは、道信が今から生まれ変わろうとしたから許したのだと思う。智行は、人生の闇の中にいる状態からはい上がって生まれ変わろうとしている道信の芽を枯らしている気がしたから、涙を流したのだと思う。